小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	医療法人社団 はっぴねす	代表者	本田誠四郎
事業所名	こころ庵尾道駅前	管理者	今川智恵

法人・事業所の特徴	その人らしく、住みなれた環境で出来るだけ長く生活を維持することを目的として、当法人ならではの介護と医療の両輪でスムーズな連携を活かした継続的かつ専門的な認知症ケアを提供している。また急変時や特変時・緊急時にも柔軟に対応しながら、ご利用者の状態変化に合わせてサービス提供内容の変更を常時行っていき、住み慣れた地域での生活を維持できるよう支援している。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	１人	人	１人	１人	人	３人	人	６人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み･結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	ご利用者の興味の持てそうな活動や行事を新たに取り入れ、その方が今までの生活の中で日常的に行っていた内容を現在できそうなものに変換させ、できる事の幅をひろげていく。	ご利用者の中で踊りやお祭り好きな方のための行事の情報を仕入れ、計画を立て見学に行った。そこで昔馴染みの地域の方にも合う事ができ喜ばれていた。また小物作りが大好きだった方へは、継続的に季節ごとの手作業を計画し一緒に行った。	～したいの実現をどうしていくか?ケア側のくみ取る力が必要となると思うが、自己評価を見て皆さんがすごく考えながら頑張ってる事が分かりました。認知症の方は特にｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの取り方が大切。皆さんこちらの言う事はしっかりと聞いていらっしゃるので、関わり方が大切なんだと思いました。	普段の生活や今までの生活の中で、興味のあった事をどうケアの中に活かしていくかを考えていく。例えば草花が好きな方や運動が好きな方へのケア方法の検討をして、サービス中で実現可能な事は何ができるかを考えていく。
B．事業所のしつらえ・環境	今の時代にあった安全対策を考慮した上、事業所の環境面を整え、その中でご利用者が安心して過ごせるようリスク管理や身体・メンタルケアを行っていく。	障害者施設の殺傷事件から、そういったﾘｽｸも想定しながら、開放的ではあるが安全面を考慮しつつ環境を整えている。ご利用者やご家族に心地よく安心して利用していただける居場所作りと雰囲気作りに取り組んだ。それがわかるようにこころ庵だよりにて情報発信もしている。	今の時代に合った安全対策は行っている。会議での毎回の報告からも、居心地よく楽しそうで、家族ではなかなか出来ない事もして頂けるので助かってます。事故を起こさない、プライバシーを保護するのは大切だが、どこまでをプライバシーとして守っていくかを考えさせられる事がある。	環境面や立地面も色々と考えた上で必要な安全対策を考え、居心地のいい空間作りをご利用者と一緒に行っていく。
C．事業所と地域のかかわり	地域に自然と溶け込んだ事業所になるべく、地域活動への参加、なじみの関係作りを大切にし、より良い協働関係を継続していく。	ｼﾃｨｰｸﾘｰﾆﾝｸﾞお手伝いやあじさいき・みなと祭り・べっちゃー・七夕等　商店街の行事のおかげで、地域行事へのお手伝いや参加が毎年継続的にできた。事業所の事も知っていただき、地域の方も温かく迎えに下さるので感謝している。	地域ｲﾍﾞﾝﾄや行事を上手に活用され、色々な所に皆さんを連れていっている。家族では本心を聞けずできない事もあり、こういうサービスがある事は素晴らしい。地域によっては、老人会や女性会が無くなる所も多く、地域のあり方も昔とは変わっている。	地域の方と自然と交流できるように今後も色々な行事にも参加し、お手伝いもさせていただきながら、事業所と地域の関わり方の幅を広げていく。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域で生きているという事を実感できるよう、地域行事やイベント等で事業所外にも積極的に出向き、暮らしを活き活きとしていける支援を継続していく。	地域伝統行事を身近で感じられ、地域に生きている実感がわくような支援をする事ができた。	プライバシー保護の問題もあり、そう簡単にはいかない事が多い中、どうやってかかわっていくのかが課題。地域交流や行事はよくできていると思います。	それぞれの地域の実情にあったかかわり方やご利用者を支えるご家族の実情も踏まえた上で、現実的なサービス提供を行いながら、地域での在宅生活を継続支援していく。
E．運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議でのご意見を活用し、事業所として今できうる事に取り組んでいく。 取り組み内容についてのご報告も適宜行っていく。	会議では民生委員さんや有識者の方々のご意見・地域の方のお話をお聞きし、昔とはまた違う地域性や家族関係で支援が必要な事が多様化している現実もある。今後も外部の方のご意見をお聞きしながら、こころ庵でできうる事を考えていく。	会議では毎回取り組み内容がわかりやすく説明され、写真等も使用しご利用者の表情やご様子がよくわかる。地域の気になる方の話題はあがるが、包括なども把握されており見守るしかない状態。具体的に話がすすめばご協力できるが今はそこまでの状況	サービスを利用されご利用者の良い変化を会議でお伝えし、認知症があってもできる事が沢山ありその人らしく生きていく事ができるよう、会議での皆さんのご意見も参考にしながら、ケアの質向上を行っていく
F．事業所の防災・災害対策	防災訓練や災害時の対応方法等も考えていき、地域の方々の現実的なご意見を取り入れた、より現実的なシュミレーションを行っていく。	今回は本当に災害があり、実体験での対応策を考える事ができ、しっかりとした対応マニュアルも作ることができた。 シュミレーションとして考えていた事と実際の現場での対応は新たな発見や疑問点や改善点も考えるいい機会となった。この体験を元に更なる対策を考えていきたい。	実際に避難ﾙｰﾄや環境を見て、ｼｭﾐﾚｰｼｮﾝも行われている。非常階段の避難は非常に危険で、７階からご利用者が降りるのは困難。ｽﾌﾟﾘﾝｸﾗｰ等も設置してあるので、初期消火で消防車が来るのを待ち、安全な場所に身をおく事が大切だと感じる。今年７月の豪雨災害で土堂は当法人含め地域に井戸がある所が多く井戸水の大切さが身に染みた。地域への支援も行われており大変助かった	防災・災害が現実に起こったからこそ分かった実体験での対応策を今後に活かしていけるよう手順書を整備し、いざという時に慌てない体制作りを行っていく。